

学校だよりかもっこ

校長 岩下 弘志



＜目指す子ども像＞

- 見通しをもって、よく考える子ども
 - 元気でたくましく最後までやりとげる子ども
 - 思いやりがあり、感動できる子ども
- 11月11日現在児童数 394名（前月比±0名）
 学校電話番号 701-3328
 HP : kamoda-e@kita9.ed.jp

平成27年度

全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

今年度、全国学力・学習状況調査の結果が出ました。皆様も新聞や放送等の報道で見聞きされた方も多いかと思えます。

本校の児童に実態については以下の通りです。

1 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析（北九州市全体として）

カテゴリー	全国との比較	学力調査傾向と特徴
国語A	全国平均正答率を下回っている。	全国平均との差が年ごとに開いてきている。特に話す・聞く力を問う問題に課題がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりや登場人物の気持ちを捉える問題に課題がある。
算数A	全国平均正答率を下回っている。	図形の性質を活用した問題、見取り図や展開図から立体の位置関係を理解する問題に課題がある。
算数B	全国平均正答率を下回っている。	数学的な考え方を求められる問題における無回答率が多い。
理科	全国平均正答率を下回っている。	実験器具等の正しい名称の理解を求める問題に、無回答率が多い。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析（鴨生田小学校）

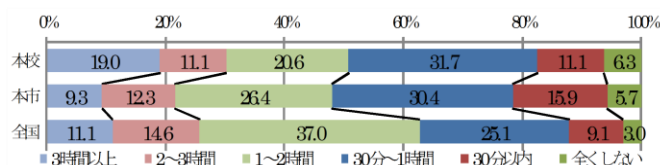
《分析》

国語はA、Bの全領域で大変厳しい状況です。特に「話す・聞く」という点に大きな課題があります。算数は数と計算領域はほぼ全国と同等です。しかし、A、Bの両方で「図形」が少し厳しい状況です。理科は実験を行うために適した材料を選び、選んだわけを記述することに課題があります。

2 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

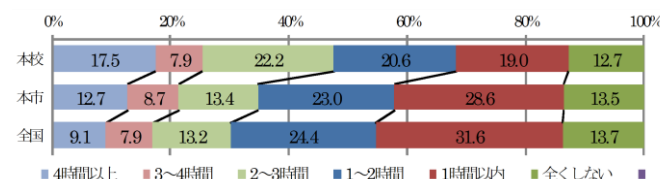
① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

グラフから見えてくる姿として、3時間以上家庭で学習している児童の割合は全国に比べて多い。しかし、全くしない、30分以内、1時間以内と答えている児童が本校では大変多いということです。頑張っている人と努力が必要な人との2極化が見られます。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

朝食を毎日食べている、毎日同じ時刻に寝ている、毎日同じくらいの時刻に起きているなどの基本的な生活習慣は良好な状態です。しかし、普段家庭で1日あたりのゲーム時間については次の状況です。



3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

教科学習の時間において、「書く力」「話す」力を付けるために、学習のめあて、まとめを素早く書けるようにします。自分の考えを書いて整理してから説明させるようにします。学習の終わりには振り返りを書く活動を位置付けて、学習中の自分の考えを書く活動を多く取り入れます。

朝自習の取組「鴨っ子がんばりタイム」の充実を図ります。毎週月曜日は、全校一斉読書。木曜日は、CRTアシストシートの実施（国語）、金曜日は、計算タイム（百マス計算を学年に応じて実施する）また、清掃後の5分間の「カタイム」（ひまわりの暗唱）を全校で継続して確実に実施します。

② 家庭生活習慣等に関する取組

本校の課題として家庭学習時間が極端に短いという調査結果がでています。このことは、普段のゲーム等の時間が長いということと密接に関係しています。今後「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭でどんな勉強をしたらよいか、学校だよりや学級通信によって協力の呼びかけを継続して行っていきます。